THE BLOCKBUSTER EXHIBITION
FROM THE VICTORIA AND ALBERT MUSEUM, LONDON

V&A

★★★★★
"Illuminating - a triumph"
THE GUARDIAN

★★★★★
"Thought-provoking"
THE TELEGRAPH

★★★★
"Stylish & Outrageous"
THE TIMES

ドキュメンタリー映画

デヴィッド・ボウイ・イズ
David Bowie is

A DOCUMENTARY TOUR OF THE
GROUND-BREAKING EXHIBITION

MORE2SCREEN GLOBAL ENTERTAINMENT FOR LOCAL CINEMAS

DONE+DUSTED

PHOTOGRAPHER: BRIAN DUFFY © THE DAVID BOWIE ARCHIVE AND (UNDER LICENSE FROM CHRIS DUFFY) DUFFY ARCHIVE LIMITED

V&A EXHIBITION PARTNERS
GUCCI AND SENNHEISER

デヴィッド・ボウイは生きている――『デヴィッド・ボウイ・イズ』

映画で観る『デヴィッド・ボウイ・イズ』―― スクリーンで観るボウイとその魅力

2016年1月、デヴィッド・ボウイが地球を旅立った。新作『★(Blackstar)』リリース直後、わずか2日後のことだった。新たな局面を開いた新作が驚きをもって迎えられ、ボウイ作品をテーマに舞台化された『ラザルス』がニューヨーク・ブロードウェイで封切られ、そしてその活動の全てを現す大回顧展『デヴィッド・ボウイ・イズ』が世界中で入場者数記録を更新し続ける最中のことだった。今作『デヴィッド・ボウイ・イズ』は、その大展覧会の内側にカメラが入った貴重なドキュメンタリー。膨大な展示の内容、見所、意図をキュレーター自ら詳しく解説しつつ、山本寛斎をはじめとするボウイの周囲に居たキーパーソンらがそれぞれの視点でボウイを語る。今作は回顧展を通してボウイの生涯と活動を振り返る見事なオマージュ作であり、巨大な展覧会についての最高のガイド・フィルムである。名演として知られる2011年の「コンサート・フォー・アメリカ」のステージも収録。

2013年にイギリス・国立ヴィクトリア&アルバート博物館で開催され、その後世界を巡回し続けた巨大な展覧会がついに日本に上陸する。まさしく待望のものといっていいが、この3年間のボウイの充実した活動ぶり、そしてあまりにも突然だった彼自身の肉体の死によって、ボウイをめぐる状況は大きく変化した。それはまるで、全てがボウイの意図どおりだったのではないかと思わされるほどのものだった。この展覧会には、「デヴィッド・ボウイとは誰だったのか?」というテーマが大きく掲げられ、そしてその展示はまさしく多岐にわたる。数々のステージ衣装や作品をつくるためのメモやスケッチはもちろんのこと、生まれたばかりのころに撮られたボウイの写真、成長期の試行錯誤、ロックスターの座を手にしてから受け取ったエルヴィス・プレスリーからの便り、はたまた、ボウイの＊＊＊＊(お楽しみに!)をはじめとする、まさかこんなものが?としか言いようのないものまで。この大回顧展と映画が示すのは、デヴィッド・ボウイという存在の驚くばかりの多様さと複雑さであり、その全貌を語ることの難しさである。デヴィッド・ボウイは、自らの身体とメディア、そしてわれわれの意識の関係を絶えず更新し続けるアーティストであった。改めて問う。デヴィッド・ボウイとは誰だったのか?今作は、決して見逃すことのできない、ボウイからの最後の贈り物のひとつである。

熊谷朋哉(SLOGAN)

http://www.culture-ville.jp

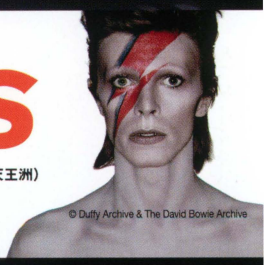
「デヴィッド・ボウイ・イズ」原題:DAVID BOWIE is / R:98分 / 監督:ハミッシュ・ハミルトン (BAFTA賞監督)
出演:デヴィッド・ボウイ ,ヴィクトリア・ブロークス ,ジェフリー・マーシュ ,山本寛斎
言語:英語(日本語字幕付) / 配給:カルチャヴィル合同会社 info@culture-ville.jp

カルチャヴィル MORE2SCREEN DONE+DUSTED

DAVID BOWIE is

デヴィッド・ボウイ大回顧展 2017.1.8→4.9

会場=寺田倉庫G1ビル(天王洲)
www.davidbowieis.jp



© Duffy Archive & The David Bowie Archive

2017年1月7日(土)より 新宿ピカデリーほか全国ロードショー

1週間限定

特別興行料金 ▶▶▶ 一般:1,800円/学生:1,200円